

「身近な地域の タカの渡りについて」

石川 滋

地元でタカの渡りが見たい。そう思ってタカの渡り観察を始めて5シーズン経ちました。鳥を見始めた頃は、サシバやハチクマはどこにいるか分からない図鑑の中の憧れの鳥でした。「タカの渡り」という行動も、白樺峠などでの話と思い身近なこととは思っていませんでした。

そんな自分が、県内のタカの渡りに興味を持ち始めたきっかけはいくつかあったと思います。一つは、会員の阿部さんの支部掲示板への投稿でした。確か、見晴らしのよさそうな場所の写真と一緒にサシバ何羽、ハチクマ何羽が見られたという内容でした。この投稿を見て、地元でもタカの渡りが見られるということを知り、さっそく自分でも始めたのが最初だったと思います。

もう一つは、有名なタカの渡りスポットでの経験です。2019年は測量山、2020年は龍飛崎でたくさんタカが渡る姿を見たことで、逆に地元ではどんなルートでどのくらいのタカが渡っているのか興味が湧いてきました。それから毎シーズン、休日になれば県内各地でタカが渡って来るのを待つようになりました。

タカの渡り観察でやることと言えば、いたってシンプルで空を眺めて通過していくタカの種類と数を記録するというものです。最初は飛んでいるのがハチクマなのかサシバなのか何なのか分からないことも多かったです。(まだまだ識別には苦労もするミスもしますが) 飛んでいるタカの種類が分かったときのうれしさは格別です。種によってはさらに雌雄や成鳥、幼鳥の識別もあり奥が深いのも魅力だと思います。たとえ種類が分からなくても、通過していくタカが越冬地まで渡って行くと思うと、生き物のたくましさを感じ胸が熱くなります。

タカの通過数だけを言えば、これまでの観察だと1日に2桁渡れば上々、何も渡らない日も普通にあるのが実情です。決して通過数は多くは無いですが、それでもタカは県内を通過していて、それを記録として残したいと思っています。

こんなことを5シーズンも続けていたのは、結局のところ自分が楽しいからというのが一番の理由です。今年も観察ポイントを探しつつ、タカの

渡りを楽しんでいこうと思います。

もし、タカの渡り観察に興味が出てきた方がいましたらお気軽にお声がけください。やってみると面白いですよ♪



ノスリとハチクマ



ハチクマ幼鳥

新入会員のお知らせ

工藤一記さん、加藤裕史さんが鳥仲間となりました。よろしくお祈いします。

支部日誌

● 2024年2月5日(月)

福島県庁において、日本野鳥の会郡山・会津両支部で「猪苗代湖のラムサール条約登録推進に関する要望書」を福島県生活環境部長に手渡しました。その結果、「登録が実現すれば自然環境保全の意識が高まり、国際的な認知度向上にもつながる。今後関係市町と協力して対応していきたい」と応えました。郡山支部からは、湯浅大郎支部長、熊谷建一副支部長が対応いたしました。